

文芸

俳句

水打つて風を呼ぶなり砂丘茶屋

池田 逸子

ひぐらしや水の匂ひ夕べ来る

伊藤 敬子

墓洗ふ祖母の行年越えしかな

今関満喜子

姿より味が勝負と地生り桃

魚地 照子

草野球済めば群来る夕蜻蛉

川島 通則

駅前前の広場沸き立つ夏祭

向後 寛

るり色のとかげの尻尾洞に入る

越川せつ子

八十路坂二本の杖で夏を切る

小松 藤男

ジーンズの漢夕べの宿浴衣

佐瀬 輝夫

老猫の膝に眠れる夜長かな

椎名万里子

はたた神土砂降り闇に遠ざかる

市東富美江

何処迄も吸いこまれそう秋の空

鈴木とし子

句作尽き居眠り二つ夜長かな

土屋美枝子

寝返りを打つても余る夜長かな

土屋 義昭

朝毎に垣根の外の花茗荷

戸村 静華

梨一つ載せて廊下に置手紙

内藤 くに

新緑に吸ひ込まれゆく杖の人

早川 勇

笛の音は空耳なりし祭あと

藤田 雅夫

短歌

田の中に一日を過ごせし白鷺は

群なし中州のねぐらめざすや

椎名美枝子

探りたての大玉トマト日を吸いて

温もりあるを友がくれたり

加瀬 弘子

取り忘れの雑草早もはびこりて

畑の地面をかくすまでなり

青木 秀子

艶やかなパッション・フルーツ初生りを

盆の供への一つとしたり

水須 俊

ゆすりたる茶碗の中に涼やかな

音色奏でる水のいくつ

西山満里子

一枚の株券持たずも新聞に

世界まきこむ株価値になる

田崎 尚美

………

激動の世代支えて来し人ら

今日敬老の宴に華やき

越川 義則

探るがに我を見てるし白き猫

やがて片方を歩みゆきたり

高梨 キヨ

湧き水の流れる中にゆらゆらと

淡き緑にわさび葉光る

浅野 榮子

作品展

◎町民会館ミニギャラリー

10月 涼風生け花クラブ

11月 展示なし

◎文化会館ロビー展

10月 俳句会、生け花クラブ

11月 パンの花クラブ

◎サビア展

10月 横芝写真クラブ

11月 展示なし

◎銚子商工信用組合展

10月 水墨画クラブ

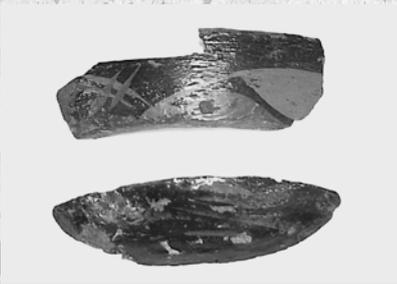
11月 展示なし



六百年前の漆器

十五年ほど前に発掘した芝崎中島遺跡は、田んぼの中に浮かぶ島のようなところて、まさにその名のとおり遺跡であった。そのため地下水位が高く、少し深く掘るとすぐ水が湧き、発掘は常に水との戦いであった。地下水位が高いことは、木材などの有機物が残る割合が高いという利点もあり、この遺跡からは多くの木製遺物が出土した。その中で最も貴重だったのは、井戸跡から出土した漆器の破片である。破片ではあるが、非常に薄い作りで、黒漆地に赤漆で鳥などの文様が描かれ、非常に出来のいいものである。その様式や技術からすると十四世紀の南北朝から室町時代前期のもののようにある。日本ではこの時期の漆器が最も優れ、江戸時代になると、むしろ厚手で粗悪になるといわれる。芝崎でこれだけいい漆器があったことは、当時ここに有力な人物が住んでいた証でもある。

(社会文化課 道澤 明)



▲漆器破片